

## A領域

## B領域

## C領域

### 局全体

(1)社会的要因等(国の経済の衰退、大規模災害発生時)への対応

- ・災害等の施設復旧に係る経費や当面の運用資金の確保
- ・大規模災害発生時の事例研究

### 競輪

(1)本場入場者数及び外向発売所入場者数の増加

- ・グレードの高いレース誘致
- ・ファンサービスの充実

(1)「選ばれるレース場〔売上〕」の実現

- ・中央団体との連携等による集客等、新規ファン獲得
- ・効果的な広報宣伝の実施

(2)「健全な運営・信頼されるレース場〔運営・財務〕」の実現

- ・企業債の償還、大規模改修の費用の確保
- ・一般会計への繰出しの再開

(2)効率的な事業運営(新規包括業務受託者の選定など)

- ・効率的な事業運営の実現が可能な事業者の選定
- ・安定的な売上確保に向けた受託事業者との連携

(3)「親しまれるレース場〔地域・社会貢献〕」の実現

- ・企業イメージの向上につながる取組の積極的な実施

### ボートレース

(1)本場入場者数及び外向発売所入場者数の増加

- ・グレードの高いレース誘致
- ・ファンサービスの充実
- ・老朽化した施設の改修、魅力ある施設整備
- ・外向発売所の環境整備や機能充実

(1)「選ばれるレース場〔売上〕」の実現

- ・魅力あるレースの提供や開催日程等の調整

(2)「健全な運営・信頼されるレース場〔運営・財務〕」の実現

- ・計画的な施設・設備の改修
- ・本場内の発売体制の効率化

(3)「親しまれるレース場〔地域・社会貢献〕」の実現

- ・ボートレースパーク化の推進
- ・来場者アンケート等による満足度向上のための仕組みづくり

## 局区X方針〈公営競技局〉

### 1 組織の使命(どのような役割を担うのか)

公営競技局は、「競輪事業及びボートレース事業の収益金で、将来にわたり北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していく」という企業理念のもと、①選ばれるレース場、②健全な運営・信頼されるレース場、③親しまれるレース場の3つの柱を掲げ、事業を推進している。

今後も、競輪・ボートレース事業のさらなる売上向上を図り、両事業の収益金を本市財政(一般会計)へ可能な限り繰り出しを行い、本市の「未来づくりと豊かな社会づくり」に貢献する。

## 2 課題と背景

### 課題A(1)

#### ① 課題名

本場入場者数及び外向発売所入場者数の増加

#### ② 課題の内容

- ・本市の本場入場者数は、競輪・ボートレース共に業界平均に比べ少ない状況にある。
- ・レース非開催日においても他場の舟券を発売することにより、受託収益が確保できる「外向発売所(※)」の入場者数も少ない状況にある。

※ボートレース若松に併設する舟券場外発売施設

#### ③ 課題の背景

- ・全国的に本場入場者数が伸び悩んでいる中、本市の本場入場者数は全国平均以下となっている。
- ・売上に関しても、現在「電話投票」(インターネット投票など)での売上が急速に伸びている一方で、本場の売上比率は低下している。(本市の競輪・ボートレースの売上は業界でもトップクラスである。)
- ・本場売上を確保することは収益面でも有効であり、ファンのすそ野を広げるためにも、本場入場者の増加は不可欠である。

#### ④ 課題に対する取組み

- 多くの入場者が見込めるSGレースなどのグレードの高いレースを誘致する。
- 食や体験型などの集客力の高いイベントの実施や来場者特典(ポイント付与等)等によるファンサービスの充実を図る。
- 老朽化した施設を改修し、魅力ある施設を整備する。
- 外向発売所については、今秋にリニューアルオープン。有料席やグループ席の新設、サービスの充実などによる快適な環境整備や機能充実などにより、入場者及び売上増加を図る。

#### ⑤ 取組みの進捗状況、取組結果(令和6年11月末時点)

競輪事業については、基幹レースである競輪祭において、民間ポータルと連携した来場ポイント付与やテレビCMの効果的な放映などを実施した結果、昨年度より大幅に入場者数が増加した。(R5:15, 272人→R6:26, 690人)

ボートレース事業については、令和7年度のSG競走の誘致に成功し、2年度連続のSG競走開催が決定した。また、11月1日に外向発売所をリニューアルオープンし、前年同月比(11月24日までの比較)において、47.4%の入場者増を達成した。

## 課題A(2)

### ① 課題名

競輪事業における効率的な事業運営(新規包括業務受託者の選定など)

### ② 課題の内容

競輪事業においては、投票業務やファンサービス業務、警備業務などを包括的に民間事業者に委託しているが、令和6年度末に新たな受託者の選定が必要となる。

### ③ 課題の背景

- ・これまで、平成18年度から継続して19年間にわたり受託していた事業者が今年度実施する公募には応募しない方針である。
- ・安定的な運営を引き継ぐとともに、これまで以上に業務の効率化や新たなファンサービスの充実を図り、十分な収益を確保できる受託事業者を選定することが必要である。

### ④ 課題に対する取組み

- 新規事業者の募集に当たっては、効率的な事業運営の実現、G Iレース(競輪祭)の成功、ファンサービスの水準の維持など、多くの事業者から新たな提案を求め、今年度中に適切な事業者を選定する。
- 新旧事業者の円滑な業務移行後に、車券の発売体制や運営事務局の業務効率化、組織体制の強化など行いながら、安定的な売上を確保できるよう、新たな受託事業者と連携を密にして事業に取り組む。

### ⑤ 取組みの進捗状況、取組結果(令和6年11月末時点)

10月9日より事業提案の受け付けを開始し、現在、小倉競輪実施事務等の包括委託事業者選定委員会において、提案を審査中であり、年度内に新たな受託者を選定予定。

## 課題B(1)

### ① 課題名

「選ばれるレース場〔売上〕」の実現

### ② 課題の内容

本市財政(一般会計)への貢献に必要な売上を確保するためには、常にファンや中央団体などから、「選ばれる」レース場であり続けることが必要である。

### ③ 課題の背景

#### 【競輪事業】

- ・ここ数年、好調な売上が続いているが、ミッドナイト競輪に参入する自治体が増えたため、本市のミッドナイト開催の売上が鈍化している。
- ・今後は競合開催における売上確保に向けた取組が必要であるとともに、新規ファンの獲得に向けた取組などが重要である。

#### 【ボートレース事業】

- ・令和2年度、3年度に過去最高売上を更新し、4年度以降も同水準を保っているが、新型コロナウイルス感染症の収束以降の社会情勢を注視しながら、売上確保に向けた取組が必要である。
- ・特に本場のボートレースパーク化の推進など業界への貢献を通じて、SGレース等のビッグレース開催場として選ばれることが重要である。

### ④ 課題に対する取組み(具体的に)

#### 【競輪事業】

- 競輪祭の実質固定開催場としての知名度、屋内レース場での安定開催の優位性を活かし、中央団体や民間ポータルとの連携による全国からの集客、SNS等を通じた新規ファン獲得などの売上向上策に取り組む。
- テレビCM放映等の効果的な広報宣伝の実施等により、既存ファン確保と新規ファンの獲得に努め、来場者数の増加に取り組む。

#### 【ボートレース事業】

- 企画レースの実施など魅力あるレースの提供や開催日程等の調整などにより、安定した売上を確保する。
- 中央団体や関係団体と連携・協力することで、SG競走等のグレードレースの誘致を実現し、来場者の増、ファンの拡大につなげる。
- 西スタンド棟改修等による快適な空間の提供やファンサービスの充実を図ることで、既存ファンの確保と新規ファンの獲得の双方を実現する。

### ⑤ 取組みの進捗状況、取組結果(令和6年11月末時点)

競輪事業については、競輪開催前にCM放映を集中的に行い、開催の告知、イメージアップ、認知度向上を図った。また、本市の基幹レースである競輪祭において、都内でのキャンペーンや小倉駅での広告展開を図り、売上増を実現(R5:130億円→R6:132億円)した。

ボートレース事業では、ミッドナイトレースの開催日数を増やし(年間 R5:27日→R6:30日)、売上の向上に努めている。また、令和7年度のSG競走の誘致に成功し、ボートレース若松での2年度連続のSG競走開催が決定した。

## 課題B(2)

### ① 課題名

「健全な運営・信頼されるレース場〔運営・財務〕」の実現

### ② 課題の内容

安定的・継続的に収益を上げるためには、健全な財政運営を行うとともに、信頼されるレース場として、施設の適正な維持管理が必要不可欠である。

### ③ 課題の背景

#### 【競輪事業】

- ・北九州メディアドームは築25年が経過するなど、施設の老朽化が進行しており、将来的に大規模な改修工事が見込まれ、整備内容の検討や改修にかかる財源の確保などが必要。
- ・確実に企業債償還を行いながら、健全な経営を継続し、一般会計繰出しの再開に向け、今後の収支や資金需要など財務分析に基づいた経営を行う必要がある。

#### 【ボートレース事業】

- ・安定的なレースを開催するため、施設の日常点検等を行うとともに、老朽化した施設の大規模改修を実施する必要がある。
- ・令和2年度以降、過去最高水準で舟券の売上額が推移しており、健全な経営を維持しながら一般会計への繰出しも高水準で実施している。今後も、収益確保に努めるとともに、継続的に一般会計への繰出しを行いつつ、剰余金の活用を図る必要がある。

### ④ 課題に対する取組み

#### 【競輪事業】

○企業債の償還に取り組みつつ、将来的に必要な大規模改修の費用を確保する。

- ・令和8年度までに企業債を完済
- ・令和10年度までに供用30年の節目を迎えるドームの大規模改修費用を確保
- ・企業債の完済に合わせ、一般会計への繰出しを再開

○レースを安定的に実施するため、計画的な施設・設備の改修を実施する。

- ・大規模改修以外の施設の計画的な改修
- ・大規模改修の方針策定に着手

#### 【ボートレース事業】

○年間約200日にも及ぶレースを安定的に開催するため、計画的な施設・設備の改修に取り組む。

○本場内の発売体制の効率化などにより、健全な業務運営に取り組む。

### ⑤ 取組みの進捗状況、取組結果(令和6年11月末時点)

競輪事業では、令和5年度決算において、車券発売が好調なことから利益剰余金は14.6億円となり、起債償還の財源として5.0億円を減債積立金へ利益処分した。令和6年度においても、10月末現在での車券発売(1日あたり)は前年度比+17.2%と好調を維持しており、令和8年度までの企業債完済、それに合わせ、一般会計への繰出しを再開できるよう、財務運営を行っている。

また、施設整備として競輪事業では、大型映像装置や照明設備の更新を行い、ボートレース事業では、イベントホールの屋根の防水工事や競走水面の水深を確保するための浚渫工事などを実施した。

## 課題B(3)

### ① 課題名

「親しまれるレース場〔地域・社会貢献〕」の実現

### ② 課題の内容

将来にわたり競輪・ボートレース事業を持続的に実施するためには、これまで以上に、事業のイメージアップや市民理解の促進などにつながる取組を、積極的に展開する必要がある。

### ③ 課題の背景

- ・令和5年度に実施したアンケートにおいて、特に車券・舟券購入経験の無い人の競輪・ボートレース事業の公益性などに対する認知度が低い。
- ・多くの人に当該事業を認知してもらえよう、社会貢献につながる事業であることを積極的に発信するとともに、レース目的以外でも気軽に来場し楽しめる場所にする必要がある。

### ④ 課題に対する取組み

#### 【競輪事業】

- 子ども食堂や地元向け夏祭りの実施など、企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進する。
- 多目的施設として、スポーツイベントの実施や地域の運動会などへの開放を進め、北九州メディアドームの利用者数の増加を目指す。

#### 【ボートレース事業】

- 子ども食堂や地元向け夏祭りの実施など、企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進する。
- 芝生広場や遊具を備えた地域貢献施設の整備(ボートレースパーク化)を推進する。
- クレカ若松(地域交流施設)を地域住民の活動拠点として定着させる。
- ボートレースパーク化を機に、新たな集客施設として多くの方に利用していただくため、来場者アンケート等を通じ、満足度向上につなげる仕組みづくりを行う。

### ⑤ 取組みの進捗状況、取組結果(令和6年11月末時点)

競輪事業では、企業イメージの向上を図るため、子ども食堂「どーむきっちゃん」を毎月1回開催するとともに、競輪祭において、潮田玲子氏のバドミントン教室や中澤佑二氏のサッカー教室を開催するなど、メディアドームの利用者数増加に向けた取組みを実施した。(R6 競輪祭アリーナイベント参加者数 14,654人)

ボートレース事業においても、子ども食堂「くれかきっちゃん」を毎月1回開催するとともに、クレカ若松において、絵画・編み物教室など親子向けの無料イベントを毎月開催した。

さらに、わっしょい百万夏まつりや若松みなとまつりなど大規模イベント等において、公営競技の公益性を積極的に発信した。

## 課題C(1)

### ① 課題名

社会的要因等(国の経済の衰退、大規模災害発生時)への対応

### ② 課題の内容

社会的要因等(国の経済の衰退による全国的な車券・舟券の売上の激減、自然災害で競輪・ボートレース施設が被災した場合等)に対して、事業継続の可否判断、継続の際の緊急・優先的な施設等の復旧、当面の運転資金・復旧資金の確保を行うなど、必要な準備をしておく必要がある。

### ③ 課題の背景

- ・ 公営競技は収益事業であり、売上激減時や大規模災害等による施設の被災時における事業継続の可否判断は重要である。
- ・ 過去、全国の公営競技の売上は平成3年度をピークに平成23年度には50%以上減少した。
- ・ 本市においても平成12年度から19年度まで、一般会計への繰出しができなかった。
- ・ 大規模災害に関しては、平成28年に熊本競輪が被災し、新規建替えのため、約53億円を要している(今年7月に事業再開)。

### ④ 課題に対する取組み

- 災害時等の施設復旧に係る経費や当面の運用資金の確保に向け、引き続き売上向上に努める。
- 今後、社会情勢を注視し、大規模災害発生時の被災地事例研究などに取り組む。
- 全国的な課題等への対応については、業界と連携しつつ、必要な準備等について検討する。

### ⑤ 取組みの進捗状況、取組結果(令和6年11月末時点)

令和5年度決算では、年度後半に車券・舟券発売が好調となったことから、利益剰余金は総額133.5億円(競輪14.5億円、ボートレース119.0億円)となった。これらの利益から、建設改良積立金に積み増した結果、被災時の施設復旧などに活用できる資金残高は令和5年度末時点で約230億円(競輪60億円、ボートレース170億円)となった。

また、被災時における事業復活の事例研究のため、令和6年7月に再開した熊本競輪場へ視察等を行った。